

日本学術会議社会学委員会「社会統計調査アーカイヴ分科会」
(第24期・第2回会合)

開催日時：2018年4月15日(日)15:00-17:00

開催場所：お茶の水女子大学 大学本館 315会議室

出席者：石井クンツ昌子、今田高俊、岩井紀子、岩永雅也、吉川徹、
近藤博之、佐藤嘉倫、白波瀬佐和子、盛山和夫、園田茂人、
玉野和志、鳥海不二夫、真鍋一史、原純輔

欠席者：大谷信介、佐藤岩夫

議事要旨

1. 第1回会合議事要旨の確認
2. 特任連携委員の紹介
東京大学大学院工学系研究科准教授・鳥海不二夫氏を特任連携委員としてお迎えした。
3. 「委員会等の議事録要旨の公開等に関するガイドライン」(平成30年3月30日、日本学術会議第261回幹事会決定)について、佐藤嘉倫委員より説明があった。本分科会では、会議等開催後にメール等により出席者が議事要旨の内容を確認し、出席者全員が確認したことを明らかにした上で、議長に承認を一任する形で議事録要旨の承認を進める旨を合意した。
4. 第24期の課題に関する意見交換
 - ・オンラインでの意見聴取の結果を踏まえ、本分科会にて議論する課題は次の3点あるいはその一部としたい旨の執行部案が提示された。(1) 社会調査におけるビッグデータ利用の可能性と諸問題、(2) 諸外国のデータアーカイヴの現状と変化、(3) 社会調査に関する啓蒙・啓発活動。
 - ・各委員からの意見は次のとおり。
 - ① 1と2のテーマは関連している。
 - ② テーマ3については、社会学教育とも関連して啓蒙的な意味がある。すでに社会調査に関する啓蒙は、質的参照基準のところでも言及した。継続的な取り組みが必要である。
 - ③ 効果的な提言の発信を検討する必要があるのではないか。
 - ④ 提言を取りまとめる作業と実際に提言がでるタイミングは要検討。機を逸した提言になるのは残念だ。
 - ⑤ そもそもビッグデータとは何なのか。さらには、各人がどのようなビッグデータを想定して議論しているのは、まず確認すべき。
 - ⑥ 社会調査との関連でビッグデータを検討することは重要である。

- ⑦ ビックデータに関しては倫理的な観点から問題が指摘されているが、ネガティブな面のみならず積極的にどう活用できるのかの議論が必要である。
- ⑧ データアーカイヴについて、ヨーロッパを中心に中央集権型から分散型への移行が進んでいる。新たなデータアーカイヴの姿を模索する必要がある。日本においても、国外の分散型への移行を検討してもよいのではないか。
- ⑨ 日本においてデータアーカイヴの充実は重要である。中央集権型如何とは別に、さらなる展開は模索すべき。
- ⑩ 今後は、ビッグデータについて、社会調査やデータアーカイヴとの関連で議論を進めていきたい。

5. 次回分科会の日程調整

6. その他

(1) 「土曜日・日曜日及び祝日における講演会、シンポジウム等の開催について」の説明、確認がなされた。

以上